9月定例会 個人質問

大本益之議員

バイオマスタウン構想について

議員　笠岡市バイオマス利活用推進協議会の各部会の取り組みの進捗状況についてたずねる。

市長　堆肥部会については、ストックヤード機能と完熟化施設を兼ねた共同堆肥舎の増設を検討し、計画はおおむねでき上がっている状況である。

　バイオディーゼル部会については、年々廃食油の回収先及び製造量も拡大しており、また平成22年から順次公用車へ燃料の導入を行っている状況である。

南海トラフの巨大地震への対策について

議員　①ハザードマップ等の見直しのスケジュールをたずねる。

②市有建築物の耐震化率の現状と今後の予定、耐震診断補助制度等の利用状況の現状についてたずねる。

市長　①来年2月末の岡山県の調査結果に基づき、ハザードマップ等の見直しを予定している。

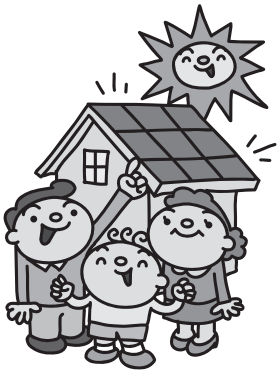
②市有建築物の耐震化率の現状については、平成24年3月末で66・7%である。そして目標である耐震化率100%に向け、耐震診断及び改修を行っているところである。

　耐震診断補助制度等については、まだ利用実績が少なく、今後市民に対してさらなる啓発を行っていきたい。

ソーラーのまちへの取り組みについて

議員　太陽光エネルギーの利用促進を先進的に進めるための、環境保全のみを目的としない導入推進条例（仮称）の制定について、市長の考えをたずねる。

市長　今のところ、太陽光エネルギーの導入推進についても笠岡市総合計画等の中で十分対応できると考えており、条例制定については今後の検討課題としたい。



蔵本隆文議員

まちづくり協議会のあり方・進め方について

議員　①将来のまちづくり協議会のあるべき姿、理想像を具体的にたずねる。

②機能するまちづくり協議会の構築のための短期、中期、長期の計画をたずねる。

市長　①地域の悩み事を相談することができ、解決の糸口を見つけ解決に向けた活動を、地域の住民や各種団体の連携、協力により地域のきずなを実感できる組織であってほしいと考えている。

　また、地域と行政がお互いに共通の認識と理解を持って地域が主体となった持続可能な地域づくりを進めることで、人々が笑顔で暮らし、住みやすい笠岡を次世代に残していくことができると考えている。

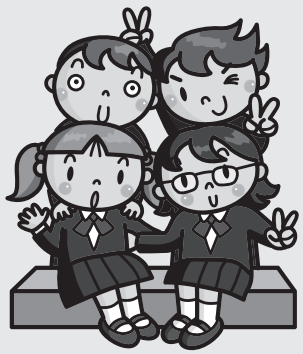
②短期的には、設立の目的等について、共通認識が得られるよう取り組んでいくとともに、各協議会で活動を計画、実行し、その結果を顧みて次の取り組みについて話し合うことが重要である。

　中・長期的には、各地域の方向性や将来像を話し合い、地域のまちづくり計画を策定、活動していき、将来はその計画を市の総合計画に反映させていくことを考えている。

いじめ問題について

議員　現在制定中の「笠岡市こども条例」の中には、いじめ対策についても盛り込まれているが、笠岡市のいじめの実態についてたずねる。

教育長　7月初旬の調査の結果、小中学校で計3件の報告を受けた。

議員　子ども条例の中で担当課との連携に関する実施要綱等を具体的に定める必要はないか。

教育長　今のところ担当課等との連携はスムーズに行われているが、制定の必要性については今後の検討課題としたい。